

南丹市子どもの未来応援プラン ～子どもの貧困対策推進計画～ の進捗状況について

基本理念

すべての子ども達が、その生まれ育った環境に左右されず、自分自身の生きる力を高め、未来を切り拓き夢をもって成長していける社会の実現を目指します。

■基本目標 1

子どもの健やかな育ちと安心して過ごせる環境の支援

【新規事業】

事業・取組	令和4年度の進捗状況	今後の予定
第三の居場所 開設	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度「サポート教室」の利用児童検討会議は6回開催し、現在利用が決定しているのは18人、うち13人の児童生徒が利用している。 日常生活体験の中でも、今年度は洗濯や調理を自主的にする力を身につけ、それが習慣化できるようになった。 豊かな経験と楽しい気づきが得られるよう、日帰り旅行や日帰りキャンプなど野外体験活動も実施した。 また、今までは園部小学校、園部中学校の児童生徒のみ「サポート教室」を利用していたが、冬休みより送迎を実施し、対象校区を園部中学校ブロック、八木中学校ブロックに広げた。実際に利用も始まっている。 「Ruri」の周知や利用に繋げるための催しとして、NPO法人与共催し、「子育てつどいのひろば」を「Ruri」にて実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も関係機関と連携し、「Ruri」の利用を必要とする子ども達が繋がり、安心して過ごせる居場所の提供に努めていく。
食事の提供支援 についての研究	<ul style="list-style-type: none"> 母子寡婦福祉会の事業として、ひとり親家庭に対し、食料品・生活必需品当配布事業を実施され、市としても広報や配布について協力した。 社会福祉協議会では、物価高騰や長引くコロナ禍への影響により生活が大変に 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も母子寡婦福祉会や社会福祉協議会と協力していく。

	<p>なった家庭に対し、食料品・日用品の配布を実施された。市としても関わりのある家庭への広報等に協力をした。</p>	
<p>学習サポーターの登録・派遣</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの居場所での学習サポーターとして、長期休暇中に学生を募集したが、条件にあった応募がなく実施できなかった。 ・社会福祉協議会と学習ボランティアの活動について検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生や居場所を卒業した者にも関わってもらうことで、子どもたちはさらに将来への夢や生きる希望を描けるのではと考えている。今後も、学習サポーターや遊びの体験など、学生等にボランティア等がかかわっていけるよう検討していく。
<p>進学に向けた支援情報の周知の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な検討に至らなかった。 ・学校への聴取の中で、支援制度が必要と思われる家庭には、進路相談時に、京都府の支援制度一覧やパンフレットで説明されているとのこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き検討を行う。
<p>子ども達への情報発信の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な検討に至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、SNSの活用の有効性など発信の方法について、学校や関係機関と検討を行う。

■基本目標2

生活基盤の安定と経済的支援

事業・取組	令和4年度の進捗状況	今後の予定
<p>モノ支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・殿田中学校生徒会のボランティア活動として、子育て支援課と協働し、学用品や玩具で、まだ使えるものを、生徒が広報し集め、子育て家庭へリユースしていく取り組みを実施した。 ・収集した物品は、地域子育て支援拠点施設や子ども家庭サポートセンター、南丹市社会福祉協議会、子育て支援課で相談対応しているケースなどに配布予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もSDGsの視点で、生徒会の自主活動と行政、地域と学校で協力できることを考え、次年度の本格的実施に向けて協議していく。

■基本目標3

社会全体での気づきの醸成と支援への仕組みづくり

事業・取組	令和4年度の進捗状況	今後の予定
庁内連携組織の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は「子どもの貧困対策庁内推進委員会」を2回実施し、現状や課題について共有した。 ・また、委員の協力のもと、「気づきをつなぐマニュアル」を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も市の課題や施策等について協議していく。
子どもの貧困への理解の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年2月14日に、市役所関係課、南丹市民生児童委員協議会、NPO法人等団体、母子寡婦福祉会、社会福祉協議会等関係者を対象に、「～南丹市子どもの貧困対策をみんなで考えよう～」と題し、ヤングケアラーについての研修会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も研修や意見交換の場を企画し、実施していく予定。
気づきマニュアルの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの貧困対策庁内推進委員会」の委員の協力のもと、「気づきをつなぐマニュアル」を作成した。今後、民生委員等に配布予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、作成したマニュアルを活用し、困難を抱えている子ども達の様子に気づけるよう、支援者と共有していく。
地域応援ネットワーク会議（仮称）の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要なケースについて個別の連携を行った。 ・令和5年2月14日に実施した「～南丹市子どもの貧困対策をみんなで考えよう～」では、地域の支援者でグループディスカッションを行い、情報共有やかかわりについて意見交換を実施した。今後も顔の見える関係を築いていくことや、お互いの役割を認識することの重要性について、皆で共通認識が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、それぞれ団体等の特徴や活動を活かしつつ、市全体の気運の醸成が図れるネットワークづくりに取り組んでいく。
持続可能な支援活動の研究	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的検討には至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き検討、協議を行う。
情報発信についての研究	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的検討には至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの貧困対策庁内推進委員会」等で意見交換を行う。